

東京百景 2021

千代田区丸の内一丁目 | 東京駅丸の内駅舎



◆名称：東京駅丸の内駅舎 ◆所在地：東京都千代田区丸の内一丁目9-1

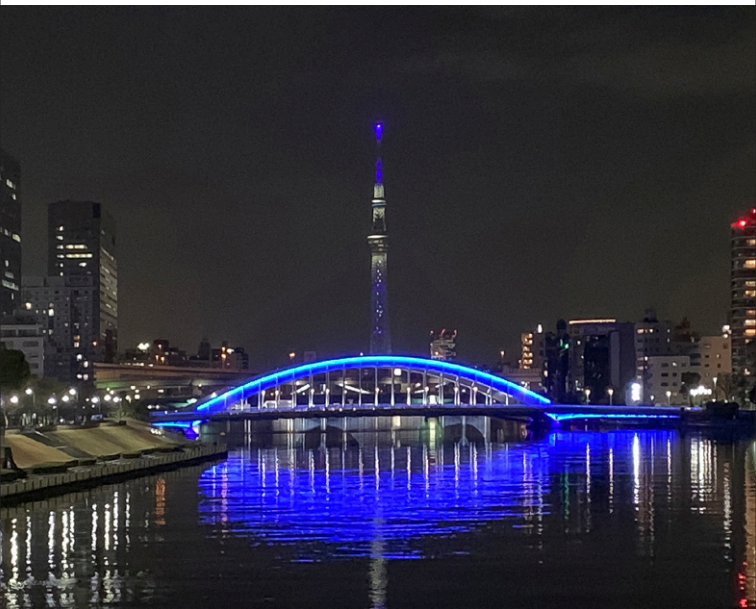
◆建築時期：大正3(1914)年12月、平成24(2012)年10月復原

東京駅の顔として、ホテル、美術館、商業施設が併設される丸の内駅舎は、日本銀行本店（明治29/1896年）などを手掛けた建築家、辰野金吾の設計により、大正3(1914)年に完成しました。東京大空襲で被災、昭和20(1945)から昭和22(1947)年に復興工事、その後保存・復原工事が平成19(2007)年から平成24(2012)年に行われ、創建当時の姿となりました。丸の内駅舎は全長約335mと東京タワーの高さを少し超える長さで、その全景を納めることに拘り撮影した1枚です。赤煉瓦の色彩がライトアップされ浮かび上がる様に、100年を超える駅舎の歴史を感じます。

文と写真：古田 秀行 | 東京都建築士事務所協会千代田支部

東京百景 2021

中央区新川一丁目 | 永代橋



◆名称：永代橋

◆所在地：中央区新川一丁目 - 江東区佐賀一丁目 ◆建築時期：大正 15 (1926) 年 12 月

永代橋は江戸時代から隅田川にかかる橋です。西岸が中央区新川一丁目、東岸は江東区佐賀一丁目。関東大震災で焼け落ちた後、現在の橋は、大正 12 (1923) 年に着工し、大正 15 (1926) 年 12 月に竣工しました。平成 19 (2007) 年に国の重要文化財に指定されています。令和 2 (2020) 年にライトアップがリニューアルされました。写真は、中央区の中央大橋からの撮影したものです。スカイツリーと美しくライトアップされた永代橋を撮影できる、人気のスポットになっています。

文と写真：永山 明男 | 東京都建築士事務所協会中央支部

東京百景 2021

港区芝浦地区 - 台場地区 | レインボーブリッジ



◆名称：レインボーブリッジ

◆所在地：港区海岸三丁目 - 港区台場一丁目 ◆建築時期：平成5(1993)年8月開通

レインボーブリッジは、平成5(1993)年8月に開通した港区芝浦地区と台場地区を結ぶ架け橋。上部には車が、下部にはモノレール・人が通れる部分を持つ二重構造の橋。夜には多彩なイルミネーションで輝く東京のシンボリック存在です。

写真は、青い空を背景に緑と海そして近代的な建造物、まさに未来に向かう港区の姿。

文：大谷 徳義、写真：笠井 高範 | 東京都建築士事務所協会港支部

東京百景 2021

新宿区神楽坂 | 神楽坂見番横丁



◆名称：神楽坂見番横丁と伏見火防稲荷神社

◆所在地：新宿区神楽坂三丁目 ◆建築時期：昭和

三業地で東京六花街のひとつである神楽坂。料亭が4軒、芸妓17名が在籍している。赤い鳥居が伏見火防稲荷神社、隣が見番の建物である。芸者衆の手配や稽古を行う見番が横丁に面し、見番横丁と名付けられた。稽古場からは時折、三味線の音色が聞こえ、花街の情緒を味わうことができ、夕暮れには、稲荷にお参りする芸妓の姿が目につく。コロナ禍の中、東京神楽坂組合は、新宿区地域文化財認定の伝統芸能として「神楽坂をどり」を今年（令和3/2021年）の秋から再開させるため、芸妓一同練習を重ねているようである。この横丁は、粋なまち神楽坂の花街を支えている一角である。

文と写真：高橋 政則 | 東京都建築士事務所協会新宿支部

東京百景 2021

文京区後楽・春日 | 小石川後楽園から見た文京シビックセンター



◆名称：小石川後楽園・文京シビックセンター ◆所在地：文京区後楽 1-6-6 (小石川後楽園)・文京区春日 1-16-21 (文京シビックセンター) ◆建築時期：小石川後楽園 1629年・文京シビックセンター 1994年

小石川後楽園は1629年に徳川頼房が大名庭園として工事に着手、その後息子の水戸黄門こと徳川光圀が引き継いで完成させたもので、国の特別史跡及び特別名勝に指定されています。

文京シビックセンターは文京区役所をはじめとする庁舎であり、区役所としては23区有数の高さを誇り、25階にある展望ラウンジからは天気が良いと富士山も見え、関東の富士見百景にも選ばれています。(※2021年8月現在閉鎖中)

小石川後楽園から建物を見るとまるでロボットが見下ろすように見えます。

文と写真：藤本 祥 | 東京都建築士事務所協会文京支部

東京百景 2021

台東区松が谷 | かつぱ橋本通り



◆名称：極楽屋陶器店

◆所在地：台東区松が谷2-26-6 ◆建築時期：不明

台東区には玩具、文具、店飾、革製品、仏壇など、さまざまな問屋街があります。なかでも「かつぱ橋」は食の専門店が集まる道具街として有名です。南北に約800m続く道具街には、個性的な店が連なり、あちらこちらに河童の像やイラストが見られます。その「かつぱ橋道具街」の中央で交差する「かつぱ橋本通り」は、地元に親しまれている商店街です。飲食店や精肉、生花などの店が並びます。その中の1軒「極楽屋陶器店」の店先の様子は、見飽きることがありません。ここでも憎めない表情のかつぱがお迎えします。

文と写真：大平 孝至 | 東京都建築士事務所協会台東支部

東京百景 2021

北区西ヶ原（飛鳥山公園内） | 青淵文庫



◆名称：青淵文庫

◆所在地：北区西ヶ原 2-16-1（飛鳥山公園内） ◆建築年月日：大正 14（1925）年

青淵文庫は実業家渋沢栄一の雅号より名付けられました。大正 14（1925）年に傘寿と男爵から子爵への昇格を祝い竜門社（現在の公益財団法人 渋沢栄一記念財団の前身）から寄贈された建物です。煉瓦及び鉄筋コンクリート造 2 階建て延べ床面積約 330㎡の洋館で、1 階は閲覧室、記念品陳列室など、2 階一部は書庫で栄一の収集した論語関係の書籍などが収蔵されました。また、国内外からの賓客をもてなす場としても利用されました。

設計監理は中村田辺建築事務所、施工は現在の清水建設（株）で、国の重要文化財に指定されています。

文：丸山 吉栄・写真：白井 聡 | 東京都建築士事務所協会北支部

東京百景 2021

荒川区東尾久 | 尾久図書館



◆名称：尾久図書館（宮前公園整備事業）

◆所在地：荒川区東尾久8-45-4 ◆建築時期：令和3（2021）年2月

宮前公園整備事業の一環であり、区内初の公園内図書館です。尾久地域の歴史的資源でもある煉瓦のある街並みと公園との調和や、近隣住宅へのプライバシーに配慮したほか、西日対策も兼ねたギザギザとしたキューブ状のデザインとしています。大正11（1922）年に開業した「あらかわ遊園」を囲んでいた煉瓦塀の一部も玄関付近に設置されており、尾久地域の歴史的資源を受け継いでいます。

公園内の隣接地では国家戦略特区制度による規制緩和を活用した公園内保育園が開園しており、この制度を活用した公園内保育園は荒川区で2例目になります。

文と写真：中原 健太郎 | 東京都建築士事務所協会荒川支部

東京百景 2021

品川区南品川 | 天龍寺の煉瓦塀



◆名称：天龍寺の煉瓦塀

◆所在地：品川区 南品川 ◆建築時期：明治後期から大正前期にかけて（推定）

ゼームス坂通りを下ると一角に天龍寺が見える。古いイギリス積みでできた赤煉瓦塀のお寺だ。塀の謂れを聞くと記録がないとのこと。

文明開化の象徴である銀座煉瓦街はフランス積みで、明治11(1878)年完成した。大正3(1914)年開業の東京中央停車場駅舎(現・東京駅)は日本煉瓦製造(株)の躯体煉瓦をオランダ積み、品川白煉瓦(株)はドイツ積みの化粧煉瓦を品川の工場で焼成し出荷した。この一帯は黎明期の近代工業の発祥地で、いずれの会社も渋沢栄一翁の薫陶を得ている。

文：黄川田 守・写真：荒木 和種 | 東京都建築士事務所協会品川支部

東京百景 2021

目黒区上目黒 | 東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス



◆名称：東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス

◆所在地：目黒区上目黒 1-9-1 ◆建築時期：平成31（2019）年1月

中目黒駅から代官山駅方面へ歩いていくと、目黒川を越えたところに大きな建物が現れる。建物の中央には大きな開口部があり、キャンパスを貫く「みち」が見えてくる。これは代官山と中目黒のふたつのまちを繋ぐ「音楽溢れるみち」として、周辺に開放した空間を演出している。このみちには、代官山の高低差に沿った階段があり、中間にはポケットパークのような広場がある。現在のパンデミックが収束し、この広場でイベントやコンサートが開かれるのを楽しみにしたい。

文と写真：田中 響子 | 東京都建築士事務所協会目黒支部

東京百景 2021

大田区南馬込 | 熊谷恒子記念館



◆名称：熊谷恒子記念館

◆所在地：大田区南馬込4-5-15 ◆建築時期：昭和11(1936)年

昭和を代表するかな書家である熊谷恒子は、その高い技量から当時の皇太子妃であった美智子様へ書のご進講を拝命しました。この記念館は、熊谷恒子が晩年まで住み続けた邸宅を改装し、彼女の書を展示するため平成2(1990)年4月に開館したものです。美しい書の数々もさることながら、昭和初期に建築され現在に至るまで、当時普及した中廊下型住宅様式の形をよく残しているという点でも貴重な建築物となっています。大谷石の階段を越えると、当時の面影を留めた記念館が出迎えてくれます。

文：奥村 徹 | 東京都建築士事務所協会大田支部、写真：熊谷恒子記念館

東京百景 2021

渋谷区代々木神園町 | 明治神宮の杜



◆名称：明治神宮の杜

◆所在地：渋谷区代々木神園町 1-1 ◆建築時期：大正9 (1920) 年

明治神宮の杜は人間がつくったものだということを知っていますか。正月は初詣のニュースでごった返していますが、平素は静かな深い杜が息づいています。崩御された明治天皇を祀る場として造営されたものです。この杜の特異な点はふたつあります。ひとつは150年先を見据えた樹木の段階的整備計画があったこと。そしてもうひとつはその管理を人間の手が関与しない自然に委ねたことです。人と自然の合作で、今日原宿竹下通りと同じ世界中の老若男女が訪れる渋谷区、東京都そして日本の宝となっています。

文と写真：塚部 彰 | 東京都建築士事務所協会渋谷支部

東京百景 2021

世田谷区弦巻 | 駒沢給水塔



◆名称：駒沢給水塔

◆所在地：世田谷区弦巻 2-41-5 ◆建築時期：大正10(1921)～13(1924)年

世田谷区の閑静な住宅街にまるで西洋のお城のような構造物がある。大正時代初め、東京の人口増加にともない井戸水枯渇や水質悪化のため、衛生と防火の面から町営水道の創設が望まれ、設計顧問に衛生工学の権威、中島鋭治博士を迎えた。関東大震災にも耐えた双子の配水塔配水塔は2基あり、その間をトラスの管理橋が結んでいる。鉄筋コンクリート造打ち放し仕上げ、しかも装飾がなされており、当時としては大変珍しかった。世田谷区民に貴重な近代化遺産で、平成24(2012)年に土木学会選奨土木遺産として都内で唯一認定されている。

文と写真：宮地 善矢 | 東京都建築士事務所協会世田谷支部

東京百景 2021

中野区上鷲宮 | 三岸アトリエ



◆名称：三岸アトリエ(アトリエM)

◆所在地：中野区上鷲宮2-2-16 ◆建築時期：昭和9(1934)年10月

三岸アトリエは、大正時代を代表する画家のひとりである三岸好太郎が、自らのデザインを基に、パウハウスに留学した山脇巖に設計を依頼してできたモダニズム建築です(2014年に国の登録有形文化財に認定されています)。通常はレンタルスタジオとして運営され、不定期ですがカフェの営業もされています。外観は建築当時とは異なりますが、内部の吹き抜け空間にはその神髄が宿っています。「有形文化財」を次の世代につないでいくための維持管理や運営資金の調達という、とても重要なテーマが残っています。

文と写真：吉村 芳明 | 東京都建築士事務所協会中野支部

東京百景 2021

杉並区荻窪 | 大田黒記念館



◆名称：大田黒記念館

◆所在地：杉並区荻窪 3-33-12 大田黒公園内 ◆建築時期：昭和8年

音楽評論の草分けである大田黒元雄の旧邸。荻窪南地域の緩い傾斜を活かした回遊式日本庭園が、端正に手入れされています。晩秋には、ライトアップされた紅葉が水面に映り込み、幻想的な世界を展開します。

離れの記念館（元雄の仕事場）は、1階のみ一般公開。木造2階建ての洋風住宅で、煙突基部のスクラッチタイル、窓の木製菱格子、鎧戸が特徴です。タイル貼り暖炉の上に目をやると、帆船を象った壁付け照明が蓄音機、楽譜等の展示品を浮かび上がらせています。スタインウェイ社1900年製のピアノは地域の人びとの支援の甲斐あって、その美しい音色を取り戻しました。

東京都建築士事務所協会杉並支部

東京百景 2021

豊島区東池袋 | 豊島区立芸術文化劇場 (愛称名: 東京建物 Brillia HALL)



◆名称: 豊島区立芸術文化劇場 (愛称名: 東京建物 Brillia HALL)

◆所在地: 東京都豊島区東池袋 1-19-1 ◆建築時期: 令和元 (2019) 年

豊島区立芸術文化劇場は、豊島区の国際アートカルチャー都市構想のシンボルである「Hareza 池袋」の中核施設で、令和元年 11 月に開館しました。2016 年 2 月に閉館し解体された豊島公会堂の跡地にホール棟として建築され、地上 8 階、地下 1 階、延べ面積約 10,700㎡の規模です。

ミュージカルやコンサートなどに対応している「東京建物 Brillia HALL」、ライブハウス「harevutai」、サテライトスタジオ「ハレスタ」、劇場空間「パークプラザ」等で構成されています。

文と写真: 渡辺 美奈 | 東京都建築士事務所協会豊島支部

東京百景 2021

板橋区仲宿 | 板五米店



◆名称：板五米店

◆所在地：板橋区仲宿 40-1 ◆建築時期：大正3（1914）年

江戸四宿のひとつ板橋宿中心部の仲宿商店街（旧中山道）にひっそりと佇む、築100年以上の建物。道路側に下屋庇をもつ土蔵造りで、近世町家の雰囲気と煉瓦壁で洋風の意匠を加味した建築が、近代の息吹きを感じさせます。近年は米穀小売業としての営業は行われておらず、不定期な貸店舗として利用されていましたが、文化財としての価値も高いことから、宿場町の雰囲気を後世に伝えるスポットとして活用することとなりました。令和2年2月、板橋区の有形文化財（建造物）に登録。

文と写真：玉田 貴紀 | 東京都建築士事務所協会板橋支部

東京百景 2021

練馬区豊玉上 | 武蔵大学大講堂



◆名称：武蔵大学大講堂

◆所在地：東京都練馬区豊玉上1丁目26-1 ◆建築時期：昭和3(1928)年

武蔵大学大講堂は、建築家で庁舎や学校を数多く手がけた佐藤功一の設計により、旧制武蔵高等学校の講堂として建築された。ゴシック様式のファサードにスクラッチタイルの装いは、西洋の様式を取り入れた近代建築の雰囲気の色濃く残している。近年、この外観を保存しつつ内部に耐震補強がなされ、学校の伝統と記憶が残るシンボルとして継承された。練馬区登録文化財。

文と写真：鈴木 宏昌／いのはな設計 | 東京都建築士事務所協会練馬支部

東京百景 2021

新「すみだの憩いの場」 | 隅田公園（南側）



◆名称：隅田公園

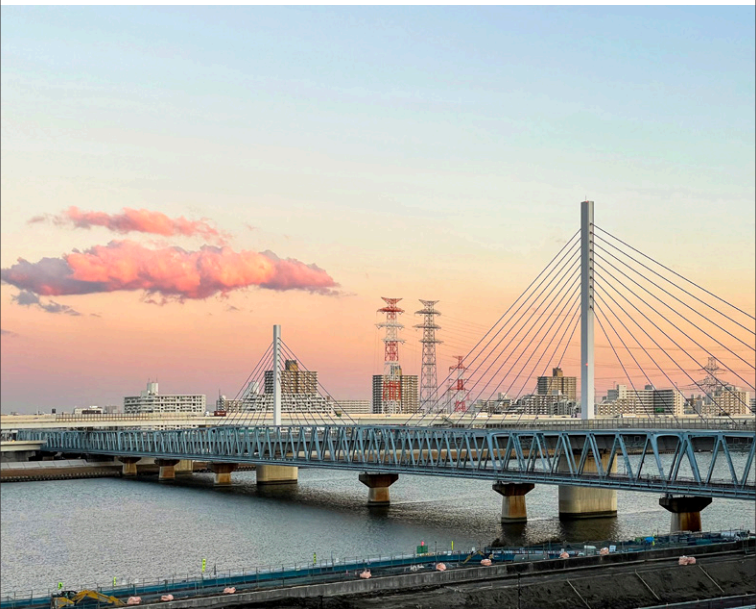
◆所在地：東京都墨田区向島一丁目ほか ◆建築時期：令和2（2020）年3月供用開始

東京スカイツリーと浅草をつなぐ東西軸のほぼ中心に位置する隅田公園（南側）が整備され、令和2（2020）年3月オープンした。イベント等が開催可能な約1,100m²の舗装広場や、区内最大約3,000m²の芝生広場、隣接する東武鉄道高架下を利用した商業施設（東京ミズマチ）や北十間川に防災船着場が整備され、さらに東武鉄道隅田川橋梁には徒歩専用利用のすみだリバーウォークが併設されて浅草との往来方法がひとつ増えた。芝生広場ではお弁当を広げる家族連れや犬と戯れる人、近隣の保育園児などたくさんの方の新たな憩いの場として賑わいを見せている。

文と写真：大谷 浩一郎 | 東京都建築士事務所協会墨田支部

東京百景 2021

清砂大橋 | 江戸川区清新町一丁目 - 江東区新砂三丁目



◆名称：清砂大橋

◆地域：江戸川区清新町一丁目(東岸) - 江東区新砂三丁目(西岸) ◆建築時期：平成13(2001)年

清砂大橋は、東京都江東区新砂と江戸川区清新町の間の荒川(荒川放水路)および中川に架かる東京都道・千葉県道10号東京浦安線(清砂支線)の橋で、橋名はそれぞれの町名から一文字ずつとって命名された。清砂大橋と並行し東京メトロ東西線が走っている。

清砂大橋は東京都の一般緊急輸送道路に指定され、平成16(2004)年度に全日本建設技術協会の全建賞(都市部門)を受賞した。荒川と中川が合流し東京湾に続く川に架かっている大橋が、大空を鳥が飛翔しているような雲と柔らかに輝く夕日に映えたいへん美しい。

文と写真：檜村 弘子 | 東京都建築士事務所協会江東支部

東京百景 2021

とんがり帽子の取水塔 | 葛飾区金町



◆名称：金町浄水場 第2取水塔

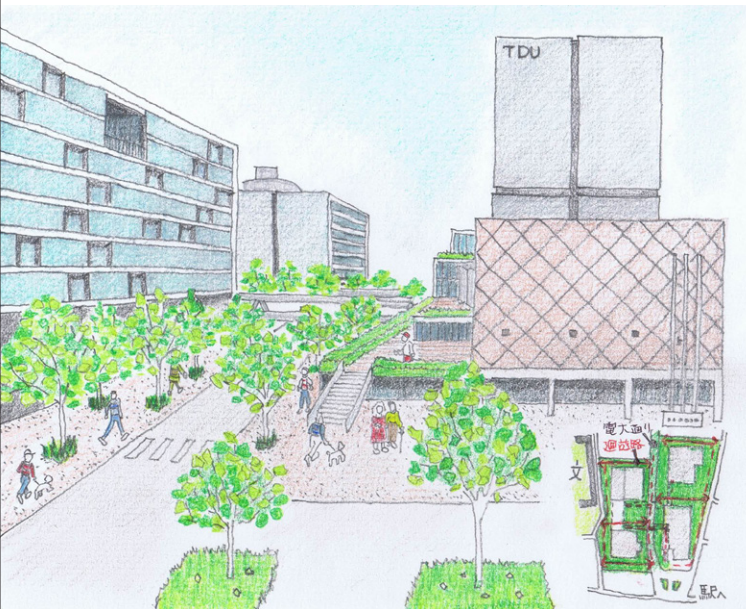
◆所在地：葛飾区金町浄水場一丁目 ◆建築時期：昭和16(1941)年

金町浄水場には、トンがり帽子の屋根でおなじみの「取水塔」があります。江戸川の景観のひとつとなる右岸に建つ第2取水塔は、浄水場に川の水を引き入れるための建物。煉瓦造で三角帽子の屋根です。金町浄水場は大正15(1926)年8月、江戸川上水町村組合の施設として給水を開始しました。昭和7(1932)年に東京市に引き継がれ、昭和16(1941)年に第2取水塔が完成して現在に至ります。平成4(1992)年に東京都で初めてオゾンと生物活性炭とを組み合わせた高度浄水施設の運転を開始したので、それまでの夏になると臭い水が一変。今では「東京水」として販売されるまでになりました。

文と写真：植竹 和重 | 東京都建築士事務所協会葛飾支部

東京百景 2021

未来につなぐ みどりのまちづくり | 足立区千住旭町 / 北千住駅東口



◆名称：東京電機大学 東京千住キャンパス

◆所在地：足立区千住旭町 ◆建築時期：平成 24 (2012) 年 4 月 ◆設計：横文彦／横総合計画事務所

足立区は水とみどりが豊かで23区一の公園面積を有しています。区内で唯一みどりが少ない宿場町の歴史ある千住地区に、5大学（放送大学、東京藝術大学、東京未来大学、帝京科学大学、東京電機大学）が誘致され、大学の外構デザインが「未来につなぐ みんなの街」のみどりづくりを担っています。北千住駅東口近くの東京電機大学は地域に開かれた大学で、地区の景観づくりを誘導し、千住の路地特性を活かした隣接道路への複数の回遊路や、電大通りの街路樹も成長し区民にみどり豊かな潤いを与える通勤路、散歩路として親しまれています。

文と絵：横村 隆子 | 東京都建築士事務所協会足立支部

東京百景 2021

古川親水公園 | 江戸川区江戸川



◆名称：古川親水公園 ◆所在地：江戸川区江戸川

◆建築時期：昭和48(1973)年

江戸川区の新川から旧江戸川にかけて全長1.2kmに及ぶ全国初の親水公園です。

江戸時代には行徳の塩を江戸に運び、昭和に入っても農業用水や水上交通の役割を担い、地域の人びとは川と深い関わりを持っていました。が、戦後の急速な都市化により、昭和40(1965)年頃には生活排水の流れるドブ川と化してしまいました。

区では埋め立てて利用する計画でしたが、川を残してほしいとの区民の強い希望により、河川再生の計画へ転換されました。今ではカモも毎年やって来る、住民の憩いの場所となっています。

文と写真：高妻 昭子 | 東京都建築士事務所協会江戸川支部

東京百景 2021

奥多摩町 | 小河内ダム（奥多摩湖）



◆名称：小河内ダム

◆所在地：西多摩郡奥多摩町原5番地 ◆建築時期：昭和32(1957)年11月

小河内ダムは、都心から約65km、標高530mの東京の最西端に位置し、水道専用のダムとして昭和32(1957)年に完成しました。貯水量は1億8,540万 m^3 、東京ドーム約150杯分の水をためることができる水道専用では国内で最大のダムです。湖畔に建つ「奥多摩水と緑のふれあい館」は、水源と水道を利用する都民の方々との交流を図ることを目的に、奥多摩の豊かな自然や、ダムの仕組み、水道の大切さを紹介しています。平成19(2007)年4月に開通した「奥多摩湖いこいの路」は、小河内ダムから「山のふるさと村」まで延長12km、4～5時間の自然散策路で、都民のいこいの場として親しまれています。

文と写真：宮田 明 | 東京都建築士事務所協会西多摩支部

東京百景 2021

八王子市高尾町 | 薬王院飯縄権現堂



◆名称：薬王院飯縄権現堂（高尾山薬王院有喜寺本社）

◆所在地：八王子市高尾町2177 ◆建築時期：享保14～宝暦3年（1729～1753）（現在の建物原型の建立）

今から約1300年前の天平16(744)年、聖武天皇の勅令により、東大寺大仏造立の「行基」により開山されました。飯縄権現堂の建立は棟札によると、本殿は享保14(1729)年の建立。宝暦3(1753)年に拝殿、幣殿がされ、当時の本殿は独立していたものと推測されます。後の文化2(1805)年の修理の際に、本殿と幣殿は連結されて権現造の形式になったと考えられます。拝殿は、木造、単層、屋根は入母屋造、銅板葺き、三間四面の堂に廻り縁を付け、組物、彫刻などは江戸時代中期の社殿建築として優れた技術がうかがわれ、この頃の権現造として優秀なものです。

文と写真：福田 邦人 | 東京都建築士事務所協会八王子支部

東京百景 2021

町田市立野津田公園 | 村野常右衛門生家



◆名称：村野常右衛門生家

◆所在地：町田市野津田町 2035 町田市立野津田公園内 ◆建築時期：江戸時代末期

この建造物は、町田市野津田町 1083 番地にあったものを、村野家から町田市が寄贈を受け移築したものです。多摩地区有数の自由民権運動家であった村野常右衛門は、この家に安政 6 (1859) 年 7 月 25 日に生まれました。常右衛門は、江戸時代末の創建時には茅葺きであった「生家」を、大正 13 (1924) 年に、当時としては珍しい鉄板葺きに改めるなど、大改築修理を行っています。常右衛門が、政党政治家として最も重きをなし、中央政界においても活躍していた、その大正時代の往時をしのぶことができる姿に復原しました。(町田市教育委員会)

写真：網倉 幸治 | 東京都建築士事務所協会町田支部

東京百景 2021

日野市本町仲田の森蚕糸公園 | 森の中の桑ハウス



◆名称：旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室

◆所在地：日野市本町6丁目仲田の森蚕糸公園内 ◆建築時期：1932（昭和7）年3月

旧日野桑園第一蚕室は市民の間で「桑ハウス」の名で親しまれている。1932年の建築は1階を鉄筋コンクリート造、2階小屋裏を木造洋トラスの混構造の細長い建物である。1階板床・腰壁板には柿渋が塗られ上部壁や天井は漆喰塗りとし、これには蚕の病害を防ぐ目的があったという。築後90年を経て廃屋然となっていた建物は熱心な市民の保存活動を受けて、日野市初の「国登録有形文化財」への登録となり、2019～20年に大規模保存修理を行い、2020年10月に完成した。今後は子どもたちや市民が憩う活用型文化施設として公開準備中である。

文と写真：川崎 和彦 | 東京都建築士事務所協会立川支部

東京百景 2021

府中市晴見町 | 東京農工大学農学部本館



◆名称：東京農工大学農学部本館

◆所在地：府中市晴見町3-5-8 ◆建築時期：昭和9(1934)年 ◆概要：SRC造3階建て、2,896㎡

東京農工大学農学部本館は、昭和9(1934)年東京高等農林学校の本館として建築されました。当時駒場にあった東京帝大農学部実科から独立し、府中町に設置されたものです。設計は、東京帝大営繕課、40歳台後半の内田祥三^{よしかず}先生。1923年の関東大震災後、安田講堂(1925年)、医学部付属病院(1928年)、工学部1号館(1935年)などと前後して計画されました。文化庁国指定登録有形文化財。平成28(2016)年改修工事完了。長きにわたって府中を見守る現役の建物として親しまれています。

文と写真：甲田 直己 | 東京都建築士事務所協会南部支部府中部会

東京百景 2021

武蔵野市御殿山 | 御殿山橋



◆名称：御殿山橋

◆所在地：武蔵野市御殿山1丁目 ◆建築時期：1962年3月

井の頭公園は、吉祥寺通りで自然文化園（武蔵野市）と井の頭池のある公園側（大部分が三鷹市）の東西ふたつに分かれています。道路には信号付きの横断歩道があって双方の行き来を結んではいませんが、近道として歩道橋も架け渡されています。RC造ポストテンションの単純梁形式で、支点間の距離はおよそ24m、幅も3.5mほど。武蔵野市内には歩道橋がこれを含めて現在は4カ所あります。私は歩道橋というものは普通は受け入れないのですが、この歩道橋には渡るための役割にとどまらず、景観ともマッチしているところが好きです。

文と写真：川田 伸紘 | 東京都建築士事務所協会北部支部

東京百景 2021

小平市御幸町 | 海岸寺山門



◆名称：海岸寺山門

◆所在地：小平市御幸町318番地 ◆建築時期：1783年(天明3年)頃

旧五日市街道沿いにある臨済宗妙心寺派の海岸寺の山門です。小平市の指定有形文化財になっています。周囲の手入れされた木々も大きく美しく、古刹の趣が感じられます。山門横の説明板によりますと、総ケヤキ造りの四脚門で、鎌倉時代の禅宗様の建築様式が取り入れられ、つくられたのは本堂と同じ天明3(1783)年頃とのことです。本柱上の組物や破風流れの屋根構え、カヤ葺きは、近隣には類例のない貴重な建物といわれています。

文と写真：竹松 和利 | 東京都建築士事務所協会北部支部